

様式第3号(第4条関係)

## 会 議 録

1、附属機関等の会議の名称 松川町自治体経営審議会

2、開催日時 平成26年5月9日(金)19時から20時50分まで

3、開催場所 松川町役場 2階 東会議室

4、出席者氏名 松川町自治体経営審議会委員

尾曾元広、大澤正則、久保田志げ子、清水すなを、松尾寿司、米沢正幸、和地雅二

(欠席:古谷はるみ、水野淳)

町:深津町長、斉藤まちづくり政策課長、米山係長、村沢主査

5、議題(公開)

(1)平成25年度自治体経営改革プランの進捗状況について

(2)その他

6、非公開の理由(会議を非公開とした場合)

—

7、傍聴人の数

0人

8、会議資料の名称

- ・松川町自治体経営審議会(第4期)次第
- ・委員名簿
- ・第2次自治体経営改革プラン進捗状況
- ・事前のご質問・ご提案について

9、審議の概要

1. 開会 (斉藤課長)
2. 会長、町長あいさつ
3. 協議事項

(1)平成25年度自治体経営改革プランの進捗状況について

事務局)実行計画について一括して説明。

委 員)医療関係施設建設は、介護保険料が上がるため難しい問題。松川東小学校あと利用検討の案の中にも病院等の意見があったが、町民の保険料が上がることを考える必要があ

る。

町 長)健康、介護、防災を重要な柱としており、健やかマイレージ、コミュニティカフェ等の企画を立ち上げている。また、予防のための対策本部の検討をしている。

委 員)以前、第3者評価委員会で事業仕訳的なことを行ったことに比べて、目標に対する達成度を表しづらく感じる。

事務局)以前は目標が達成できたことが評価されれば、その項目は削除された。

現在は5年かけて考える様式になっており、統一して評価ができるように検討していきたい。

委 員)5ページ「町税等の徴収体制の強化」では、平成25年度の目標値98.6に対して、平成27年度では98.5に低くなっている。特殊な要因があるのかもしれないが、なぜ目標値が低くなるのか。

事務局)平成22年度に設定した目標であることから、見直していく必要がある。

委 員)特殊要因で目標値が高くなっていたのであれば、修正して下げることも重要。

事務局)総合計画では10年間で1つのくりとして計画を実行していく中で、5年で見直しをしていた。10年間という期間を見直す自治体も増えてきており、長野県は5年である。

委 員)年度目標にこだわるのが重要。また、右肩上がりの目標だけではなく、充電期間を設けることも大切。企業にも赤字目標というものがある。

町 長)年度当初に各課7~8項目の目標が立てられており、各課長から具体的な内容をヒアリングし、議会へも公表している。また、各課目標に沿って人事評価を行っている。

また、四半期ごとに進捗状況を管理し、目標に至らない場合には要因分析と課題解決について検証を行っている。

委 員)年度目標に沿って人事評価を行っていることは理解できたが、本会議に示されている資料がまとまりすぎており、目標を達成するための現場の苦勞が伝わりづらい。

公表する資料をまとめるために本会議があると思うので、現場の状況を審議できる内容も検討していただきたい。

委 員)2ページ「職員接客力の向上」にある「外部調査員」とは何か。

事務局)住民税務課で作成した内容であり、精査して後日文書にて回答する。

町 長)行政の売り上げは、住民満足度だと考える。私自ら聞いた現場の声を根拠に、施策を考えている。

委 員)顧客満足度を図るべきである。住民ニーズはビジネスマナー的なこととは違うと思う。以前に比べれば行政と住民の距離は近くなっているが、温度差がある。この温度差を把握し、サービス向上へつなげて欲しい。

事務局)本資料で示している接客満足度アンケートは、窓口サービスに限定されているものであり、施策的なことに対する満足度については、総合計画の中で検討していきたい。

町 長)後期基本計画ではアンケートをとり、図表で示している。

委 員)職員研修について、多くの職員が様々な研修に参加しているが、成果はどのようにしめされているか。

事務局)リーダー塾については立候補制。目に見えた成果をすぐに出すことは難しいが、個々のスキルを上げ、情報共有の幅が広がるなど、将来的に成果が見いだすことができる有効的な研修である。最近は行われていないが、以前は報告会を実施していた。

今後は学んできたことのフィードバックをする場を考える。

また、他の研修については、新入職員研修や新規係長研修など、基礎的、一般的なことも含まれている。以前の役場は国や県で決めた業務を行っていたが、現在は職員の企画立案力が極めて重要であることから、研修は有効である。

研修終了後には、復命書を課長経由で町長へ提出している。

委員)自分の行ってきたことをわかりやすく第3者へ伝えることは、さらに自分の糧となり、報告会に参加した人も勉強になることから、報告会は大切。

事務局)まつかわ町民提案型まちづくり事業実績報告会を、昨年度初めて実施した。感想等があればお聞きしたい。

委員)たいへん素晴らしかった。費用対効果の検証は重要。

委員)指定管理について、町の状況はいかがか。また高森町のように、保育園の指定管理は考えているか。

町長)保育園の指定管理については考えていない。

事務局)指定管理を請け負うことを業務としている業者が梅松苑を運営している。民間活用は量がまとまり、採算がとれないと難しい。施設の老朽化も問題となる。

町長)現在産業振興プロジェクトを立ち上げ、別会社の形態で研究をしている。

委員)町有地の貸付等の状況はいかがか。

事務局)町有地の貸付はある。町営住宅は老朽化の問題がある。

委員)分譲など土地開発公社が中心となって人口増の取り組みを検討してはどうか。

町長)現在、南森林住宅地が残り1区画。名子原県住あと地の造成を検討したい。

人口増対策については、人口が減ることは確実だが、減っても松川町に住んで良かったと思える町にしたい。

委員)客のターゲットを絞り、満足度をあげることが企業の常識だが、行政にはできないこと。人口増のために個性を出すということは、客のターゲットを絞ることになってしまい、ジレンマを感じる。

事務局)いずれ子どもたちが帰ってくることにつながる仕事をしていく、という職員の意識改革が必要。

副会長)女性が都会に出て行ってしまふことが地域の衰退につながる。地元の人であっても地域の知らないことが多いので、地域の魅力を理解できるようにし、地元に戻ってくる気風が大切。

町長)現在地域案内人の活用を行っている。地域のブランド化を意識し、地域の人が案内し、企画を提案できる着地型観光を充実させたい。また、上伊那、下伊那、木曾地方事務所の連携を重要視していきたい。

(2)その他

事務局)会議は年1回。議事録を近日中に送付予定。

4. 閉会(斉藤課長)

(終了:20:50)